



佐藤ミンさん・右馬吉さん(長泥)



大東亜戦争時代、夫婦で満州にいたことがあります。敗戦から日本に帰るまで、体験した者だけがわかる過酷な生活でしたね。

今の場所に来てからは開墾生活です。2人して手作業で大木を切り、土地をこれも自作の鍬やもっこで耕し田んぼを開き、「かます」の上に土を重石にして馴らしたりもしました。食糧は木を燃やした灰を肥料にじゃがいもを作りました。

今の家が立つ前は自分で建てた小屋住まい。さあ骨組みを作ったのはいいが、屋根は前山からの笹で葺き、ぐるわ(回り)は葦で囲い、床は木の枝を敷いて、その上に布団を敷きました。夏はカエルやナメクジなどが入ってきて大変。あんまりすごかったので、息子は「あの家写真に残しておけばよかったなあ」と言っていますよ(笑)。

あと、妻は50年前に買った縞(しま)と緋(かすり)の着物をまだ持っていて、去年の冬も着ていました。当時は割烹着なんてなかったので、袖のところは継ぎ当てになっています。一日中忙しかった当時、継ぎあてを縫っている暇がよくあったなあと思います。そうしてまでいに物を使うことが、面倒な今になってしまったような気がします。

佐藤次男さん(上飯樋)に知事感謝状

県内で3人 鳥獣保護員へ長年の奉仕



▲受賞した佐藤さん

11月12日に原町市の合同庁舎で行われた表彰式で、佐藤次男さんに福島県知事感謝状が贈られました。

これは、佐藤さんが10年7ヶ月の長きに渡り、鳥獣保護員として地域に貢献してきたことに対し贈られたもので、今回は佐藤さんを含め県内で3人に贈られています。

今回の表彰について、佐藤さんは「自分は当り前のことをしてきただけ。知事から感謝状をもらえるとは全く思わなかった。今はまず、残りの任期を地域のために努力したい」と感想を話していました。